



# 県政世論調査

---

平成 26 年度

---

概要報告書



静岡県

# 目次

---

	ページ
調査の概要	1
(生活についての意識)	
暮らし向き	2
日常生活の悩みや不安	3
静岡県の住みよさ	4
(県の仕事に対する関心)	
県政への関心度	5
行政機関への意見や要望、不満	6
広報媒体の浸透度	8
日常の課題や生活における意識	10
環境保全に関する意識	21
臓器提供に関する意識	23
防犯及び交通安全に関する意識	24

# 調査の概要

## 1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

## 2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 環境保全に関する意識
- (4) 臓器提供に関する意識
- (5) 防犯及び交通安全に関する意識

## 3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 4,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- 調査時期 平成26年6月18日～7月1日
- 調査機関 株式会社SBSプロモーション

## 4 回収結果

	20歳以上の 推定人口	標本数	回収率 (%)	有効回収率 (%)
東 部	1,020,535	1,338	762 (48.0)	762 (48.0)
中 部	974,615	1,273	707 (52.8)	707 (52.8)
西 部	1,068,083	1,389	806 (51.0)	806 (51.0)
地 域 不 明			21 ( - )	15 ( - )
全 県	3,063,233	4,000	2,296 (57.4)	2,290 (57.3)

### この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は2,290を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 グラフの中の「n」(number of caseの略)は回答者総数(あるいは分類別の該当者数)を示し、質問の「SQ」(Sub-Questionの略)は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問であり、末尾に(M. A.)(Multiple Answersの略)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

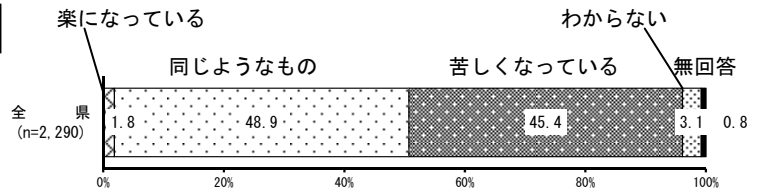
# 暮らし向き — 「苦しくなっている」という人が45.4%、40代では50.4%

**Q1** お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

**SQ** お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由はなんですか。(3M.A.)

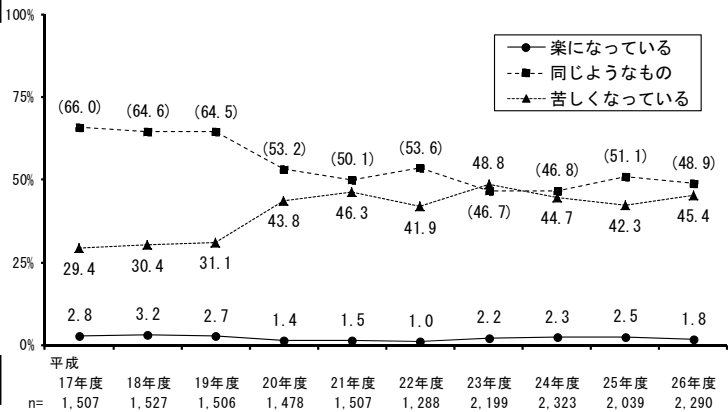
## 暮らし向き

●暮らし向きが「同じようなもの」と回答している人は48.9%、「苦しくなっている」人は45.4%となっている。



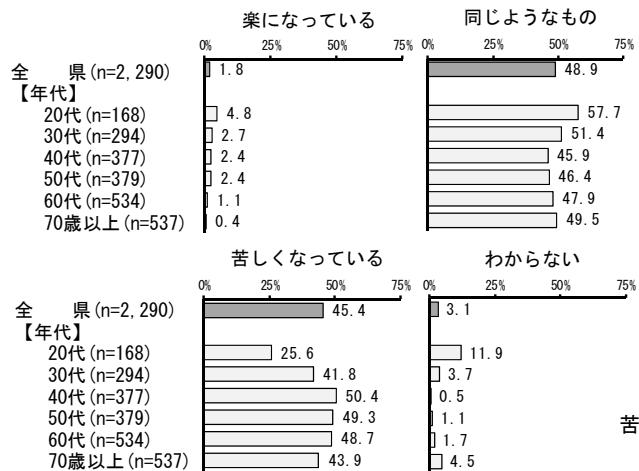
## 経年比較

●平成17年度以降の推移でみると、平成20年度以降「同じようなもの」と回答した人の割合が6割を下回るようになり、「苦しくなっている」は4割を上回るようになってきている。



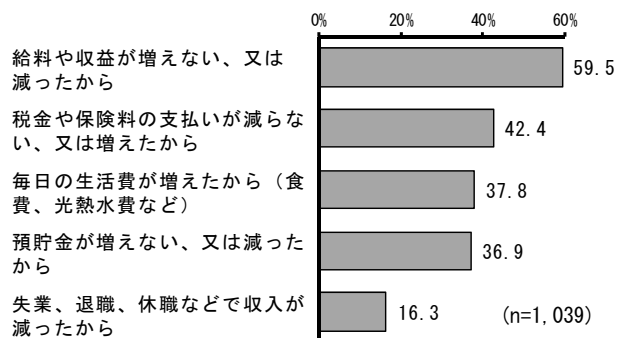
## 年代別

●「同じようなもの」が『20代』と『30代』で半数を超えて高くなっている。また、「苦しくなっている」は『40代』以下において年代が上がるほど高くなり、『50代』以上においては低くなっている。



## SQ 苦しくなっている理由

●暮らし向きが「苦しくなっている」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が59.5%で最も高く、以下、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」、「預貯金が増えない、又は減ったから」の順となっている。(右図は上位5位)



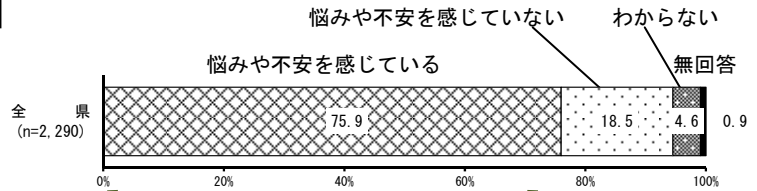
# 日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人が 75.9%

**Q2** あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。

**SQ** 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(M.A.)

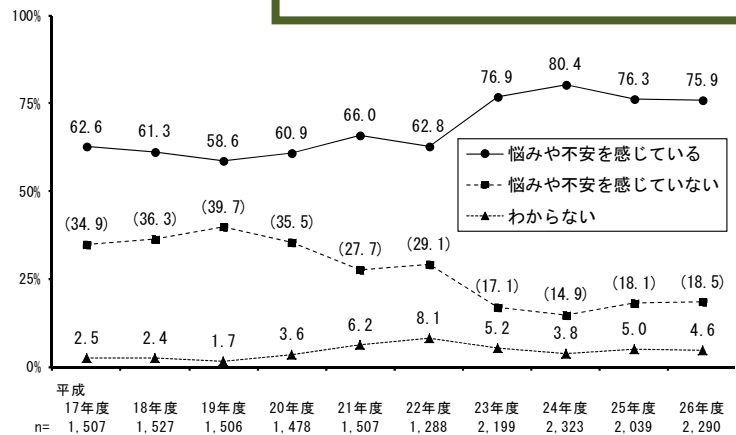
## 日常生活の悩みや不安

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は 75.9%と、4人に3人の割合となっている。



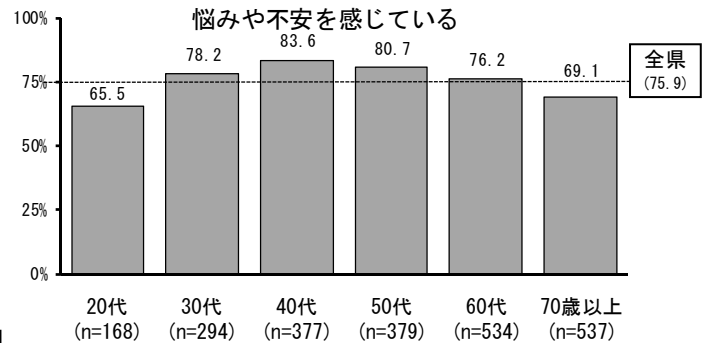
## 経年比較

●平成 20 年度以前は、「悩みや不安を感じている」が 6 割前後で推移していたものの、平成 23 年度以降においては、7 割を上回っている。



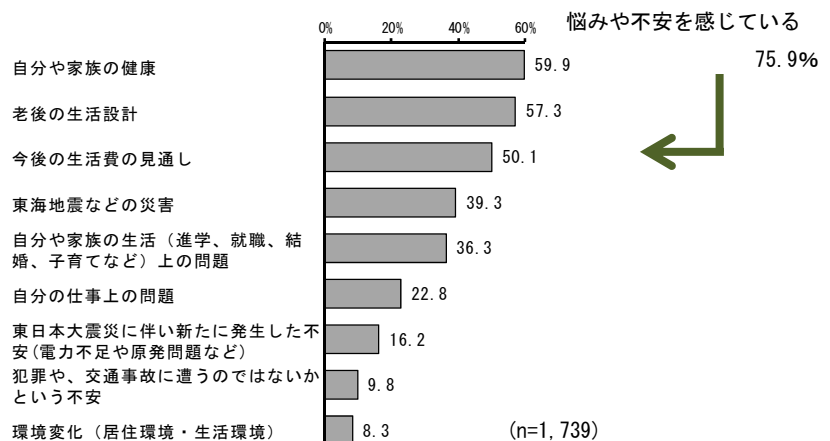
## 年代別

●「悩みや不安を感じている」が『40代』、『50代』以上において8割を上回っている。



## SQ 悩みや不安の内容

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容について尋ねたところ、「自分や家族の健康」が 59.9%と約 6 割で最も高く、以下、「老後の生活設計」、「今後の生活費の見通し」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



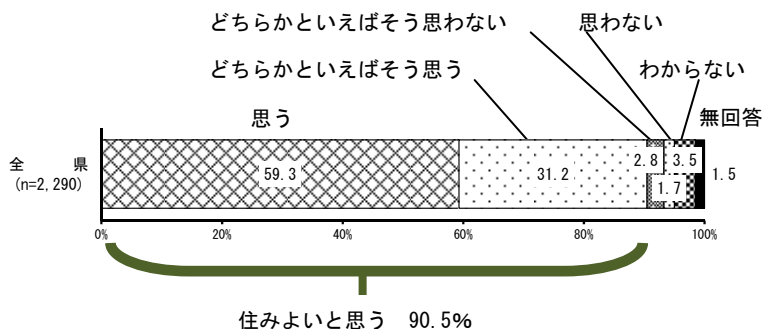
# 静岡県の住みよさ —住みよいところだと「思う」人が90.5%

**Q3** あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。

**SQ** あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(3M.A.)

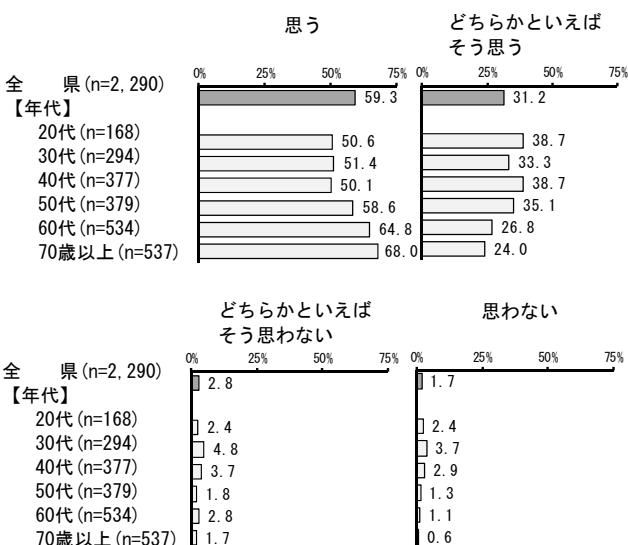
## 静岡県の住みよさ

●静岡県は住みよいところだと思うかについては、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた90.5%の人が静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



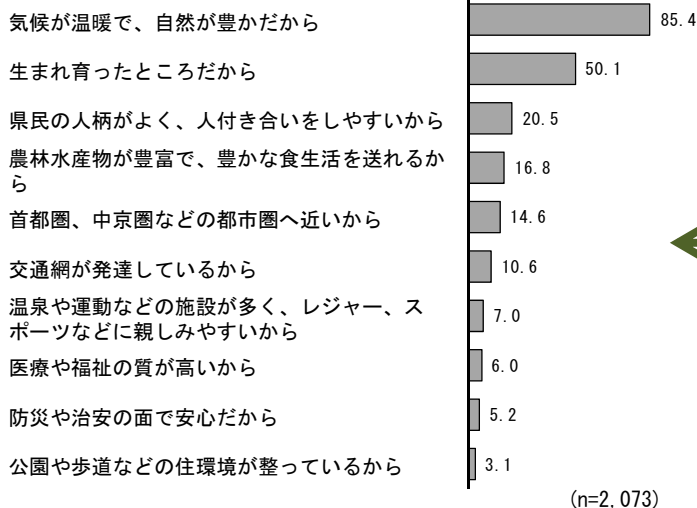
## 年代別

●静岡県は住みよいところだと「思う」が『60代』、『70歳以上』において6割を超えて高くなっている。



## SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県は住みよいところだ「思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が85.4%と8割を超えて最も高く、以下、「生まれ育ったところだから」、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」、「交通網が発達しているから」、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」、「医療や福祉の質が高いから」、「防災や治安の面で安心だから」、「公園や歩道などの住環境が整っているから」の順になっている。(右図は上位10位)

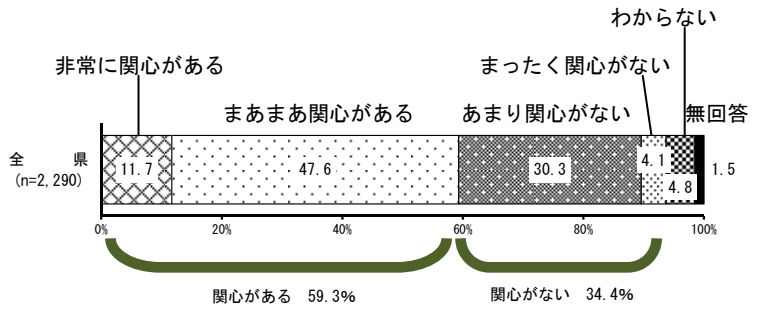


# 県政への関心度 — 県政に「関心がある」人は 59.3%

**Q4** あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。  
**SQ1** 県政に関心がある理由はなんですか。  
**SQ2** 県政に関心がない理由はなんですか。

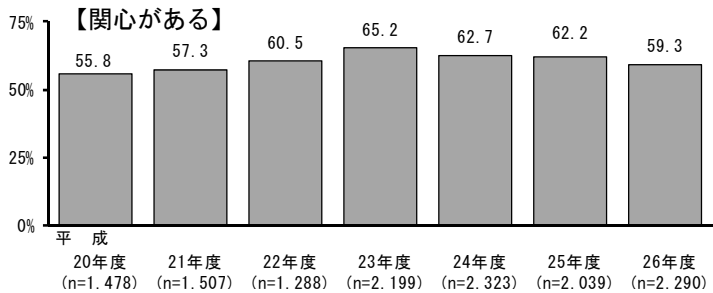
## 県政への関心度

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」と回答した人を合わせた 59.3% の人が県政に関心があると回答している。



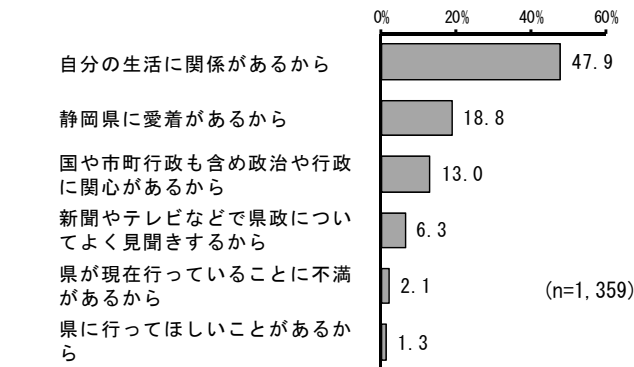
## 経年比較

● 平成 24 年度以降、「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合が低くなっている。



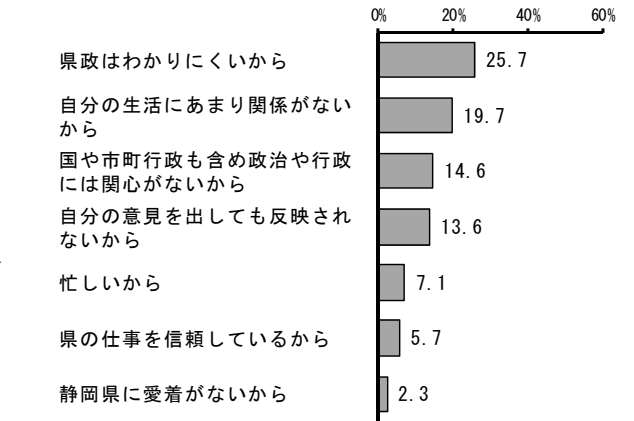
## SQ1 関心のある理由

● 県政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「自分の生活に関係があるから」が 47.9% と最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順になっている。



## SQ2 関心がない理由

● 県政に「まったく関心がない」と「あまり関心がない」と回答した人にその理由について尋ねたところ、「県政はわかりにくいから」が 25.7% と最も高く、以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」、「忙しいから」、「県の仕事を信頼しているから」、「静岡県に愛着がないから」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



(n=786)

# 行政機関への意見や要望、不満

— 行政機関への意見や要望、不満が「ある」人は43.9%

**Q5** あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

**SQ1** それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(M.A.)

**SQ2** それでは、そのことを県に伝えましたか。

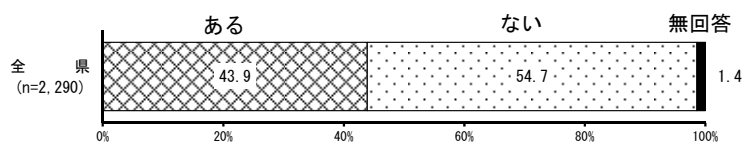
**SQ3** どのような手段で伝えましたか。(M.A.)

**SQ4** 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。

**SQ5** どうしてそのように(「伝えても無駄だと思ったから」)思ったのですか。

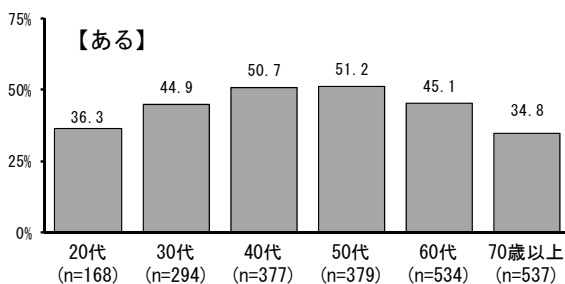
## 行政機関への意見や要望、不満

●行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は43.9%となっている。



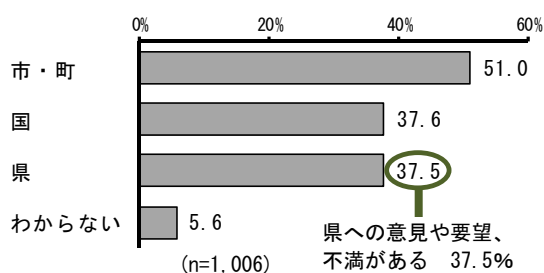
## 年代別

●行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は、『40代』と『50代』において、5割を超えている。



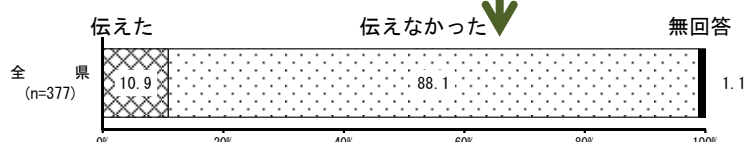
## SQ1 担当する行政機関

●行政機関の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、どの行政機関が担当している仕事かを尋ねたところ、「市・町」が51.0%と最も高く、以下、「国」、「県」の順になっている。



## SQ2 伝達の有無

●県の仕事に対して、意見や要望、不満が「ある」と回答した人に、県への伝達の有無を尋ねたところ、県に「伝えた」人は10.9%となっている。

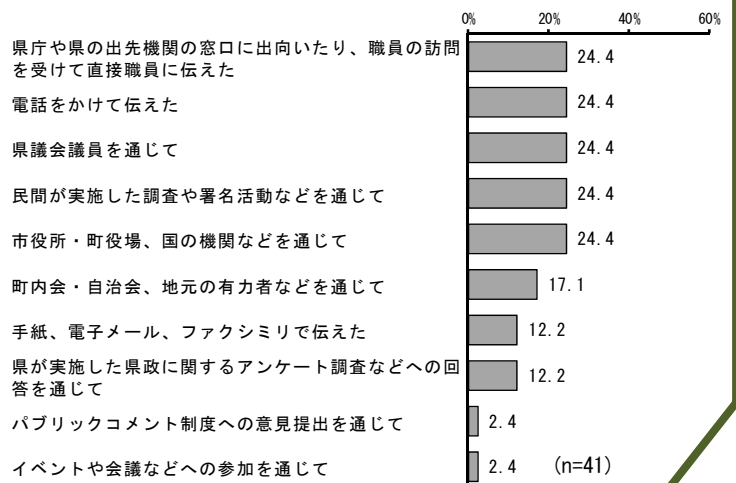




伝えた 10.9%      伝えなかった 88.1%

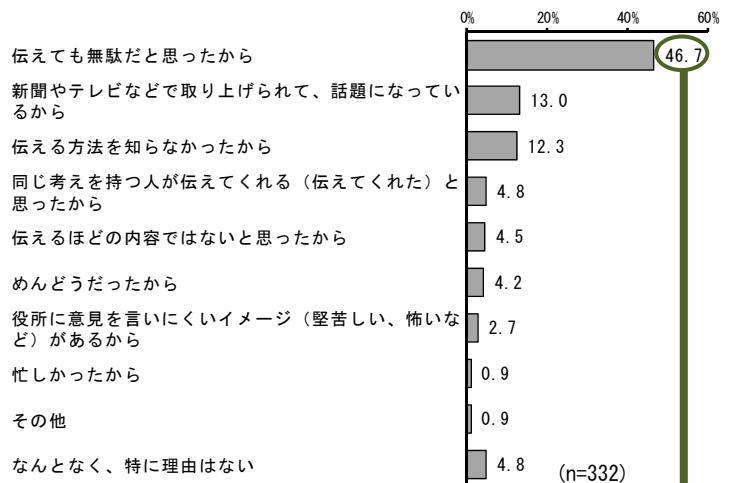
### SQ3 伝達方法

● 県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えた」人に、その方法を尋ねたところ、「県庁や県の出先機関の窓口に向いたり、職員の訪問を受けて直接職員に伝えた」、「電話をかけて伝えた」、「県議会議員を通じて」、「民間が実施した調査や署名活動などを通じて」、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」がそれぞれ24.4%となっている。（右図は上位10位）



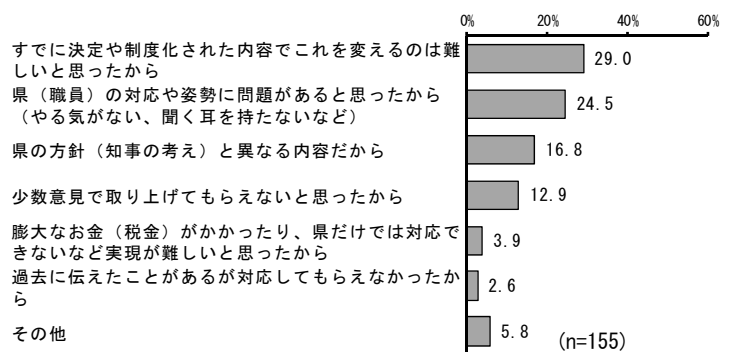
### SQ4 伝達しなかった理由

● 県の仕事に対して意見や要望、不満が「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人に、その理由を尋ねたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が46.7%と最も高く、以下、「新聞やテレビなどで取り上げられて、話題になっているから」、「伝える方法を知らなかったから」が4.8%と最も高く、以下、「新聞やテレビなどで取り上げられて、話題になっているから」、「伝える方法を知らなかったから」の順になっている。



### SQ5 「伝えても無駄だと思った」理由

● 伝えなかった理由を「伝えても無駄だと思った」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」が29.0%と最も高く、以下、「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」が24.5%と最も高く、以下、「県の方針（知事の考え）と異なる内容だから」が16.8%と最も高く、以下、「膨大なお金（税金）がかかったり、県だけでは対応できないなど実現が難しいと思ったから」が3.9%と最も高く、以下、「過去に伝えたことがあるが対応してもらえなかったから」が2.6%と最も高く、以下、「その他」が5.8%となっている。



# 広報媒体の浸透度

——「県民だより」を読んでいる人は62.5%、

「テレビ広報番組・コマーシャル」を見た人は45.9%——

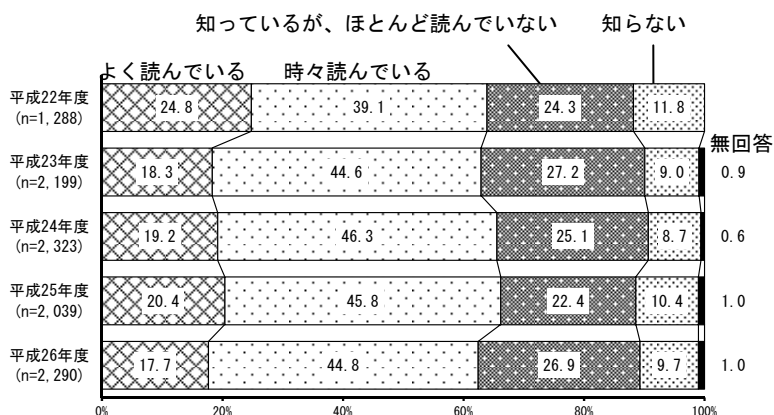
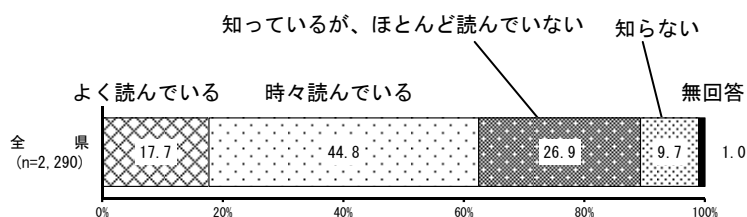
**Q6** あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

## 県民だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた62.5%が県民だよりを読んでいる。

### 経年比較

- 平成22年度以降、「よく読んでいる」は2割程度、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合は、6割台で推移している。

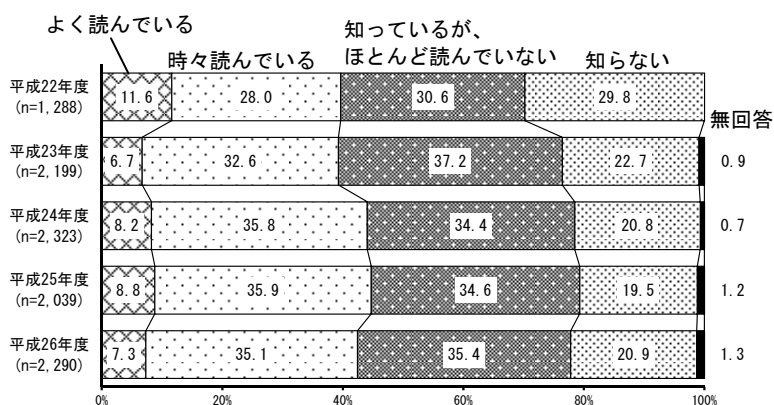
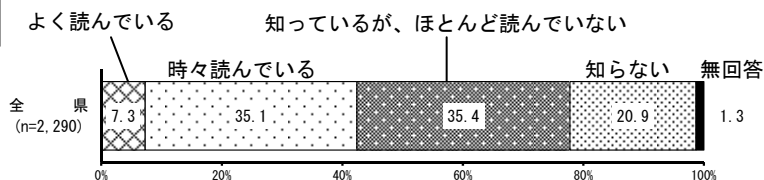


## 静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた42.4%が静岡県議会だよりを読んでいる。

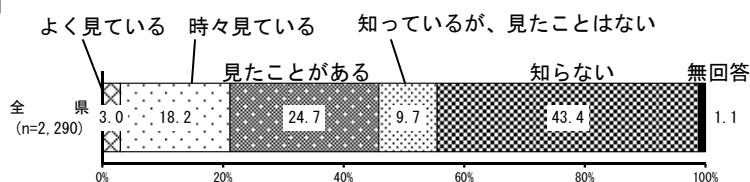
### 経年比較

- 平成23年度までにおいて、「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合が4割を下回っていたものの、平成24年度で上昇に転じ、4割を超えている。



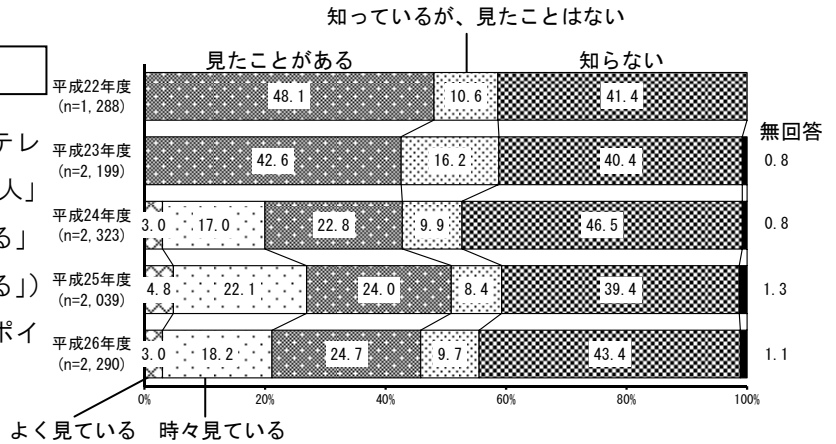
## テレビ広報番組・テレビコマーシャル

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた45.9%がテレビ広報番組・テレビコマーシャルを見ている。



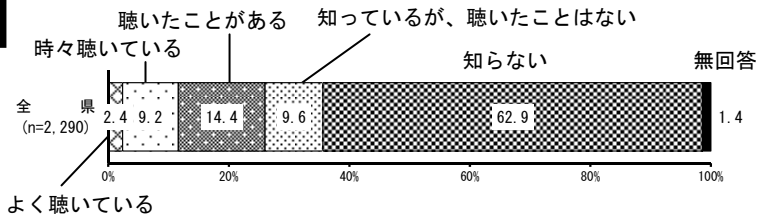
### 経年比較

- 平成25年度に、テレビ広報番組・テレビコマーシャルを「見たことがある人」（平成24年度からは「よく見ている」+「時々見ている」+「見たことがある」）が5割を上回ったが、今年度は5.0ポイント低くなり5割を下回っている。



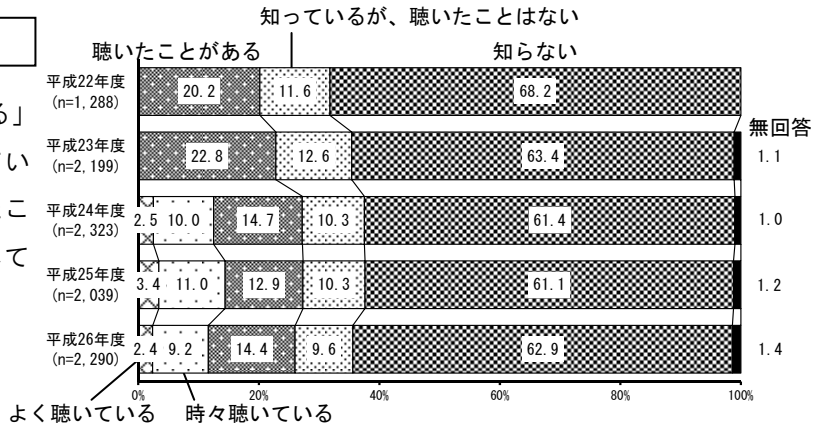
### ラジオ広報番組

- 「よく聴いている」と「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた26.0%がラジオ広報番組を聴いている。



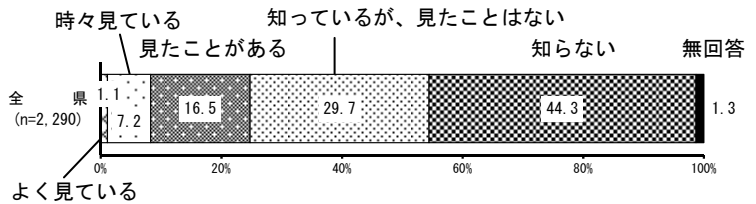
### 経年比較

- ラジオ広報番組を「聴いたことがある」人（平成24年度からは「よく聴いている」+「時々聴いている」+「聴いたことがある」）の割合は2割台で推移している。



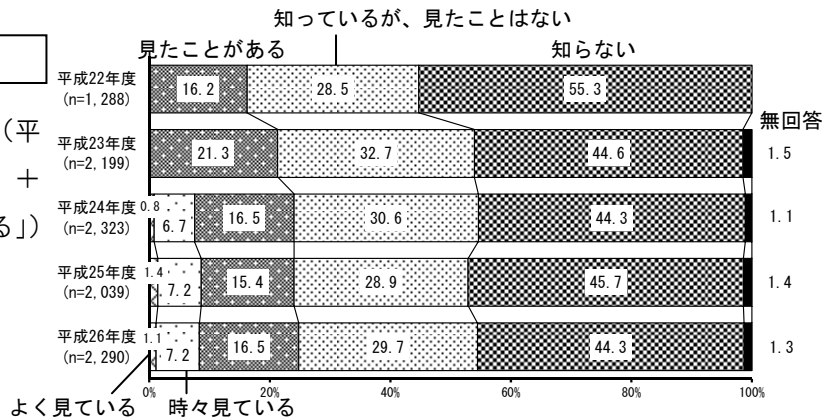
### 県のホームページ

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた24.8%が県のホームページを見ている。



### 経年比較

- 平成23年度以降、「見たことがある」（平成24年度からは「よく見ている」+「時々見ている」+「見たことがある」）が2割を超えている。



## 日常の課題や生活における意識

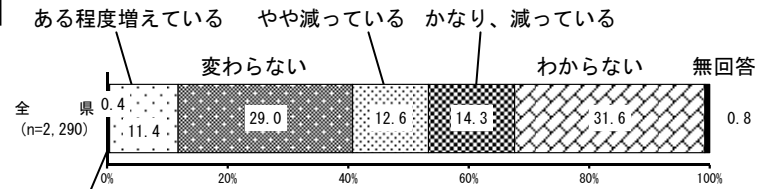
**Q7** あなたは、日常生活の中で、思いやりをもって行動できる「有徳の人」が増えていると思いますか。

### 「有徳の人」の増減

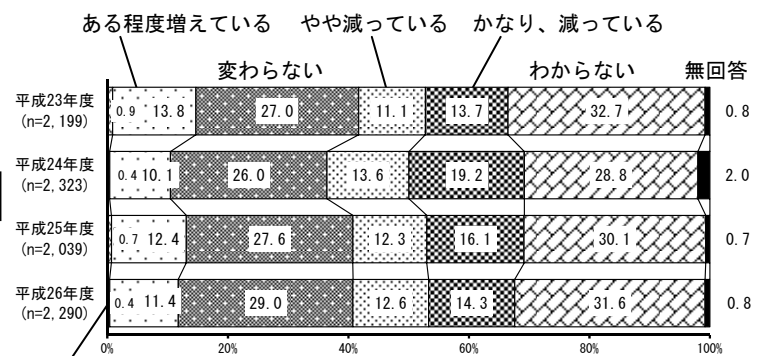
- 「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた11.8%が「有徳の人」が増えているとしている。一方、「かなり減っている」と「やや減っている」を合わせた26.9%は「有徳の人」が減っているとしており、「有徳の人」が減っていると思う人が、増えていると思う人の2倍以上になっている。

### 経年比較

- 平成23年度以降、「おおいに増えている」と「ある程度増えている」を合わせた割合は1割台で推移している。



おおいに増えている



おおいに増えている

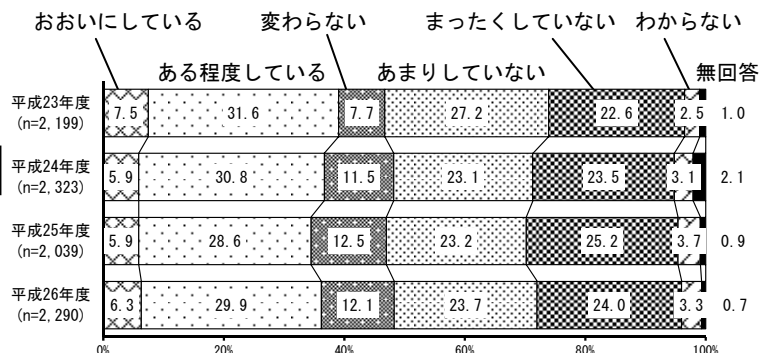
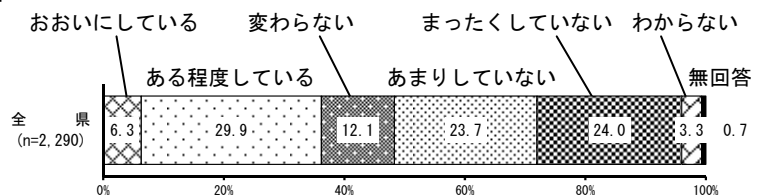
**Q8** あなたは、文（学問・学習活動）、武（スポーツ活動）、芸（文化・芸術活動）のいずれかの分野で、自己を磨く努力をしていますか。

### 文・武・芸への取組状況

- 「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた36.2%が文・武・芸を磨く努力をしているとしている。一方、「まったくしていない」と「あまりしていない」を合わせた47.7%は文・武・芸を磨く努力をしていないとしており、努力をしていない人の方が高くなっている。

### 経年比較

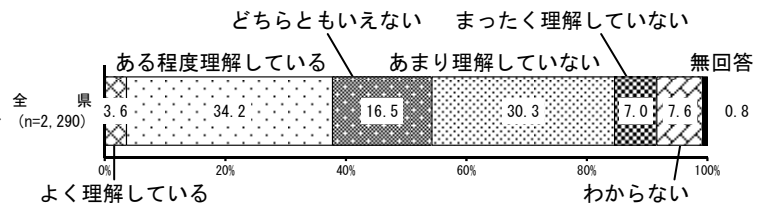
- 平成23年度以降、「おおいにしている」と「ある程度している」を合わせた割合は3割台で推移している。



**Q9** あなたは、原子力発電の仕組みや浜岡原子力発電所でどのような対策が講じられているかについて、どの程度理解していますか。

**原子力発電の仕組みや対策への理解度**

●「よく理解している」と「ある程度理解している」と回答した人を合わせた37.8%が理解しているとしている。一方、「まったく理解していない」と「あまり理解していない」を合わせた37.3%が理解していないとしており、大きな差はみられない。



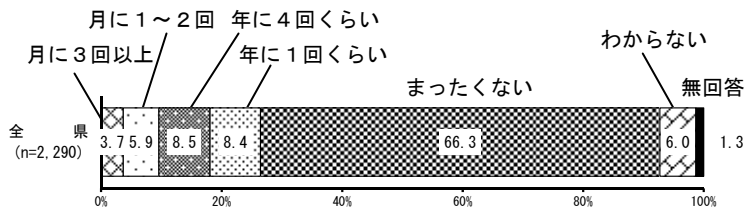
**Q10** あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。

「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会の役員会活動、父親の会、子ども会、ボーイスカウトなどの実践活動
- ・スポーツ少年団などのスポーツ指導
- ・読み聞かせ、音楽や絵画、工作、手芸などの文化指導
- ・学校部活動、総合的な学習などの指導
- ・交通安全、防災・防犯などの指導
- ・自然体験、社会体験、国際交流などの指導
- ・子育てサークルなどの指導

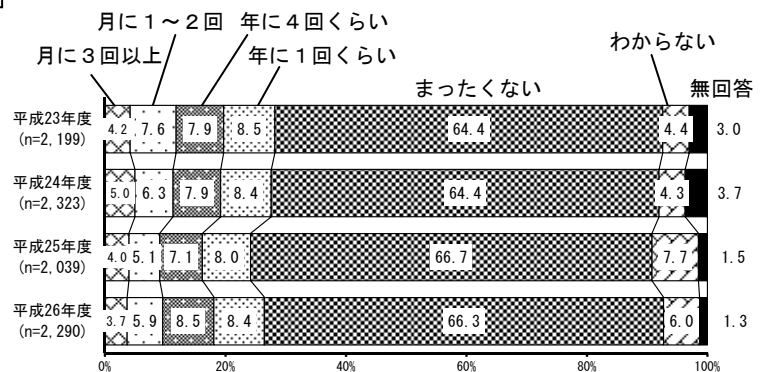
**子どもをはぐくむ活動への参加状況**

●「子どもをはぐくむ活動」をしている人は26.5%、「まったくない」人は66.3%となっている。



**経年比較**

●平成23年度以降、「子どもをはぐくむ活動」をしている人は2割台で推移している。



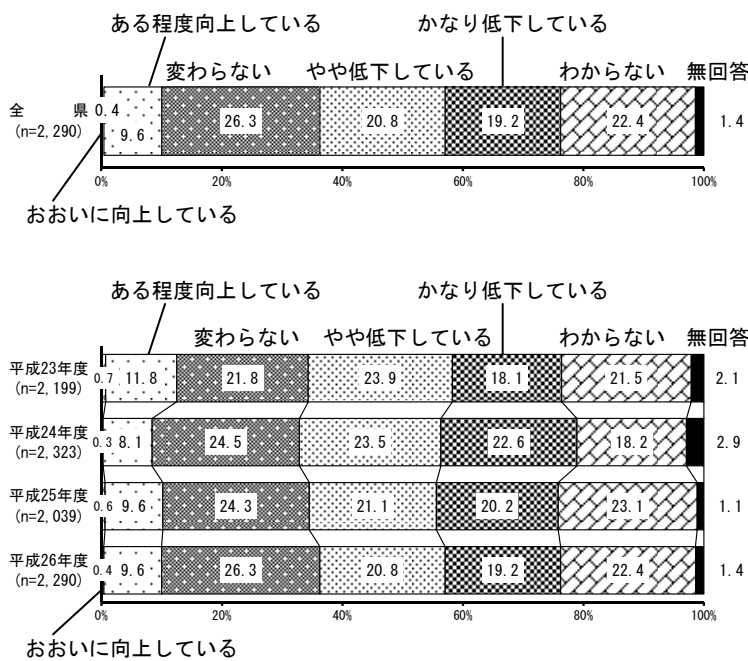
**Q11** あなたは、自分が日常接する青少年（自分の子どもは除く。概ね 25 歳未満の方）の規範意識(社会のルールを守ろうとする意識)について、どう思いますか。

**青少年の規範意識の程度**

●「おおいに向上している」と「ある程度向上している」を合わせた 10.0%が青少年の規範意識が向上しているとしている。一方、「かなり低下している」と「やや低下している」を合わせた 40.0%は青少年の規範意識が低下しているとしており、青少年の規範意識が低下していると思う人が、向上していると思う人の 4 倍になっている。

**経年比較**

●平成 23 年度以降、青少年の規範意識が向上していると思う人は 1 割前後で推移している。



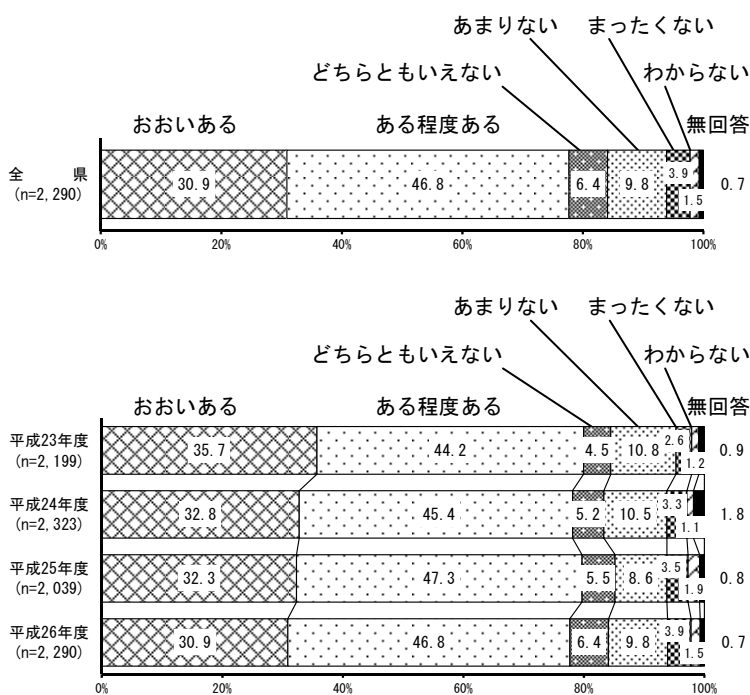
**Q12** あなたは、日常生活の中で富士山について、想ったり、考えたりすることはありますか。

**富士山への関心**

●「おおいにある」と「ある程度ある」を合わせた 77.7%が富士山について想ったり、考えたりすることがあるとしている。一方、「まったくない」と「あまりない」を合わせた 13.7%は富士山について想ったり、考えたりすることがないとしており、富士山について想ったり、考えたりすることがある人が、ない人の 5 倍以上になっている。

**経年比較**

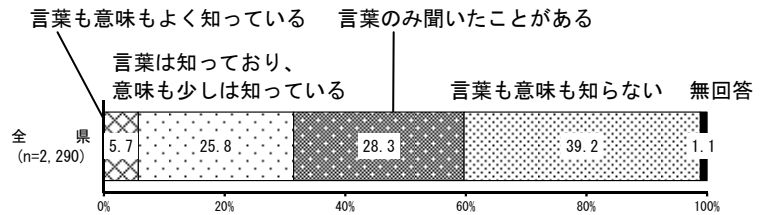
●平成 23 年度以降、富士山について想ったり、考えたりすることがある人は 7 割台で推移している。



## Q13 「多文化共生」という言葉や意味について、あなたはどの程度ご存知ですか。

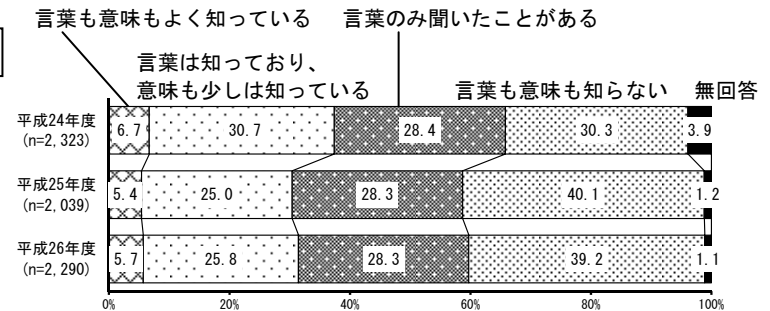
### 「多文化共生」が知られている状況

- 「言葉も意味もよく知っている」と「言葉は知っており、意味も少しは知っている」、「言葉のみ聞いたことがある」を合わせた 59.8%が「多文化共生」という言葉を知っているとしている。一方、「言葉も意味も知らない」は 39.2%となり、「多文化共生」という言葉を知っている人の方が高くなっている。



### 経年比較

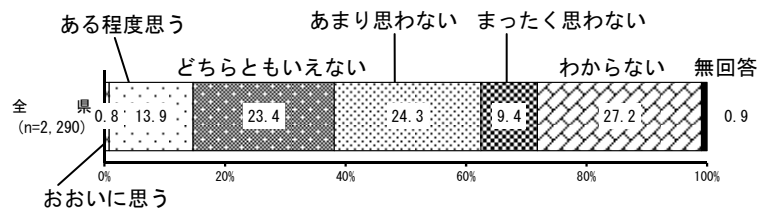
- 前年度との比較では大きな差はみられない。  
※平成 24 年度は「多文化共生」をテーマに、他の複数の質問と合わせた調査形式であった。



## Q14 県内のまちのなかで、学生をはじめとした若者の学びや交流・社会活動などによる賑わいが増えていると思いますか。

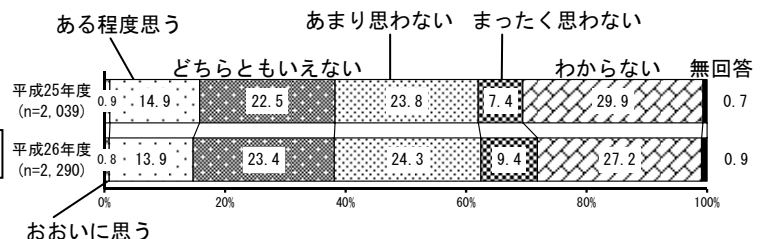
### 若者の賑わい

- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた 14.7%が若者の賑わいが増えていると思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた 33.7%は若者の賑わいが増えているとは思わないとしており、若者の賑わいが増えているとは思わない人が、増えていると思う人の 2 倍以上になっている。



### 経年比較

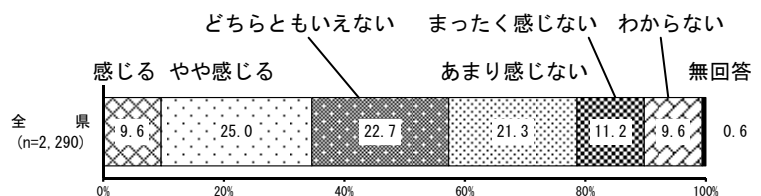
- 前年度との比較では大きな差はみられない。



## Q15 あなたの生活の中で、「仕事と生活の調和」は実現していると感じますか。

### ワーク・ライフ・バランス

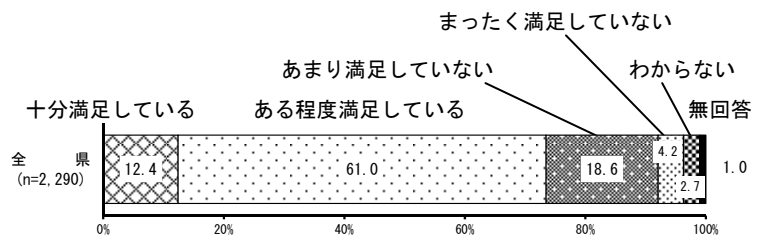
- 「感じる」と「やや感じる」と回答した人を合わせた 34.6%が「仕事と生活の調和」は実現していると感じているとしている。一方、「まったく感じない」と「あまり感じない」を合わせた 32.5%が「仕事と生活の調和」は実現していないとしており、大きな差はみられない。



## Q16 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。

### 住宅・住環境の満足度

- 「ある程度満足している」と回答した人は 61.0%と最も高く、以下、「あまり満足していない」、「十分満足している」の順になっている。





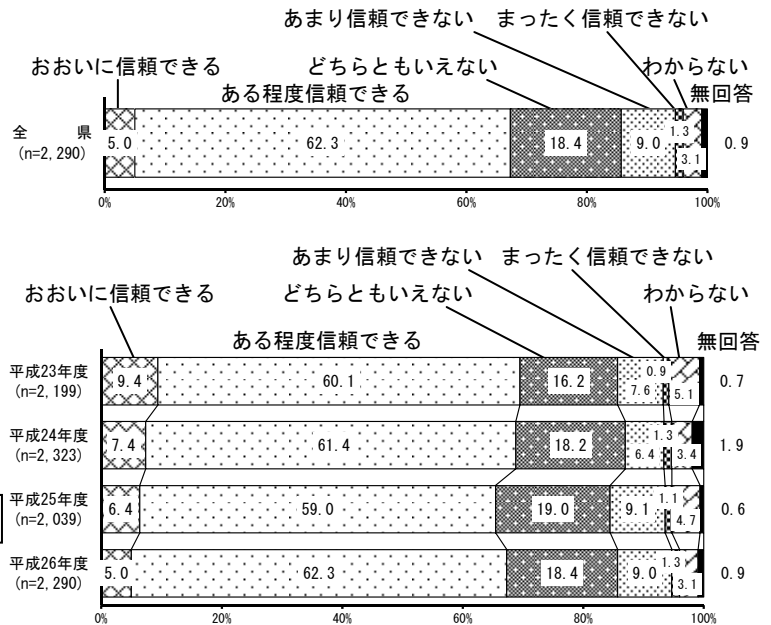
## Q17 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

### 食品の安全性に関する意識

- 「おいに信頼できる」と「ある程度信頼できる」を合わせた67.3%が県内で購入する食品の安全性を信頼できている。一方、「まったく信頼できない」と「あまり信頼できない」を合わせた10.3%は県内で購入する食品の安全性を信頼できないとしており、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人が、信頼できない人の6倍以上になっている。

### 経年比較

- 平成23年度以降、「おいに信頼できる」は低くなっている。



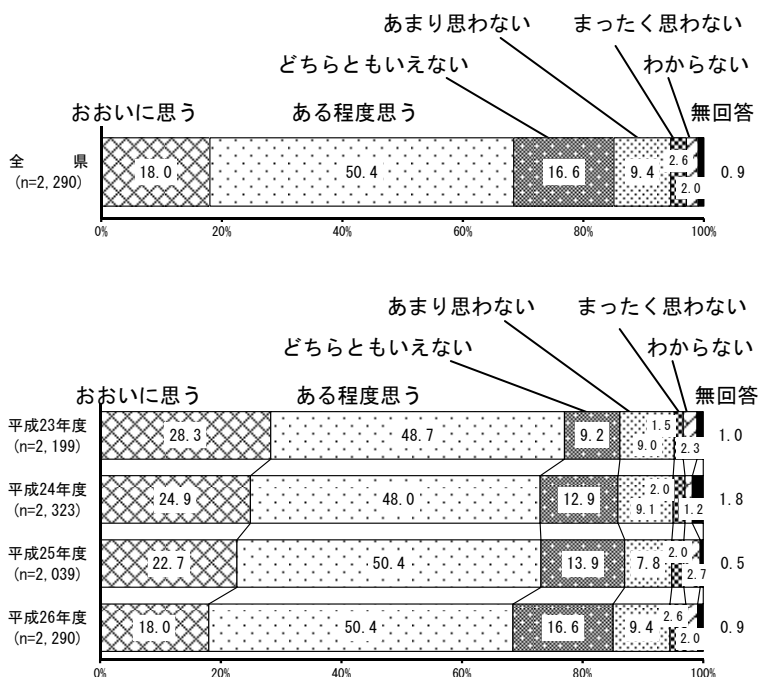
## Q18 あなたは、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思いますか。

### 地域の景観への誇り

- 「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた68.4%が自分が住んでいる地域の景観を誇りに思うとしている。「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた12.0%は自分が住んでいる地域の景観を誇りに思わないとしており、自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う人が、思わない人の5倍以上になっている。

### 経年比較

- 前年度と比較すると「おいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が、4.7ポイント低くなっている。



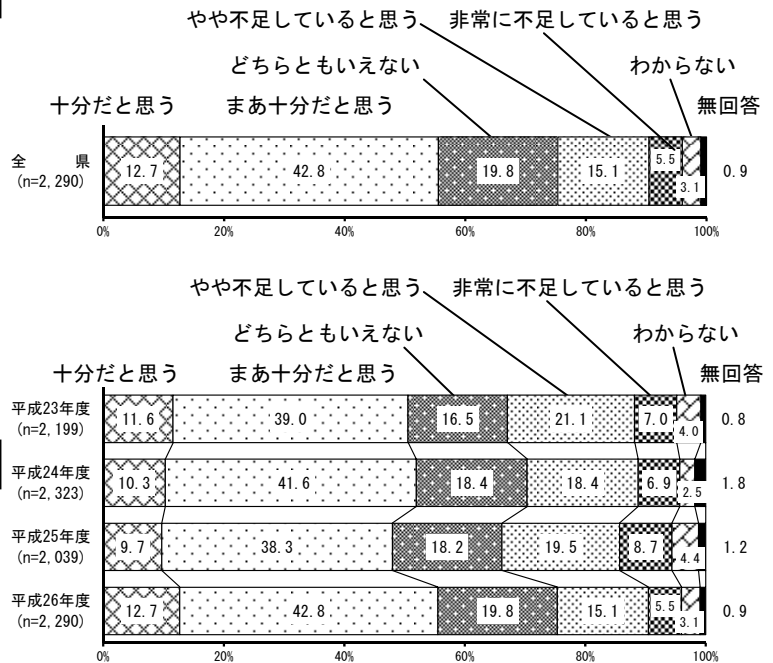
## Q19 あなたの身近にある公園や歩道などの花や緑の量は十分だと思いますか。

### 花や緑の量

- 「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた 55.5%が花や緑の量が十分だと思うとしている。一方、「非常に不足していると思う」と「やや不足していると思う」を合わせた 20.6%は花や緑の量が不足していると思うとしており、花や緑の量が十分だと思う人が、不足していると思う人の2倍以上となっている。

### 経年比較

- 前年度と比較すると、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた割合が 7.5 ポイント高くなっている。



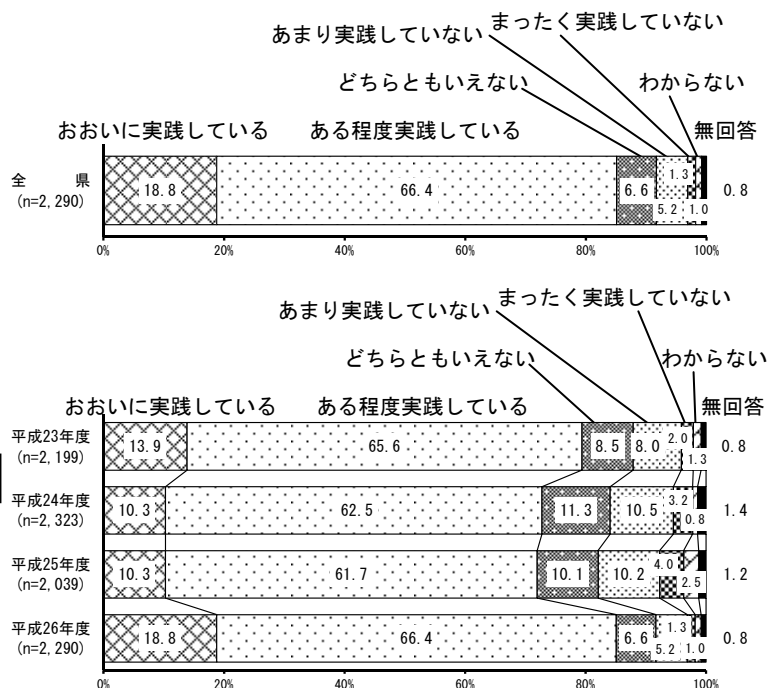
## Q20 あなたは、節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など、環境への配慮を実践していますか。

### 環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた 85.2%が環境を守るための活動を実践しているとしている。一方、「まったく実践していない」と「あまり実践していない」を合わせた 6.5%は環境を守るための活動を実践していないとしており、環境を守るための活動を実践している人が、実践していない人の13倍以上となっている。

### 経年比較

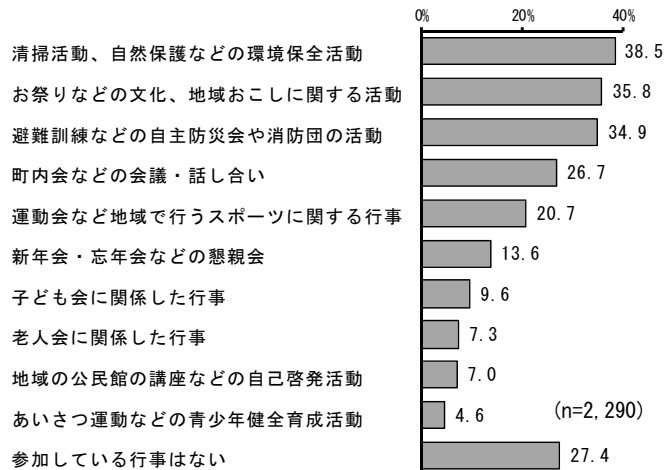
- 前年度と比較すると、「おおいに実践している」と「ある程度実践している」を合わせた割合が 13.2 ポイント高くなっている。



## Q21 あなたは地域のどのような行事や活動に参加していますか。(M.A.)

### 参加している地域の行事や活動

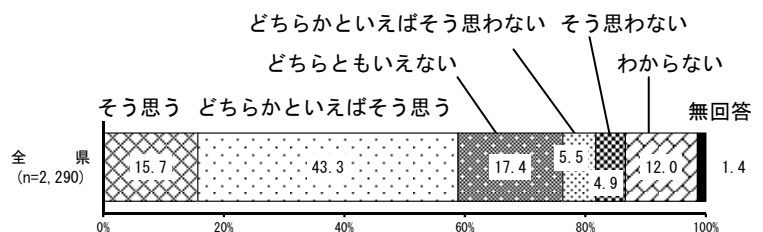
- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」に参加している人の割合が 38.5%と最も高く、以下、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」の順になっている。一方、「参加している行事はない」は 27.4%となっている。(右図は上位 10 位と「参加している行事はない」)



## Q22 あなたは、多くの人が利用する施設（公共施設、鉄道駅、ショッピングセンターなど）や日常生活で使う製品、文字が大きく読みやすい情報誌や新聞など、身の回りにおいて、10年前と比べて誰もが暮らしやすい、ユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思いますか。

### ユニバーサルデザインによる社会づくり

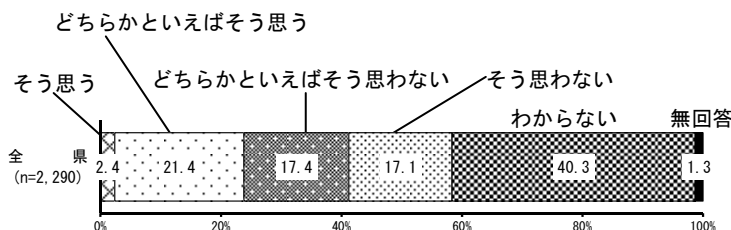
- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人を合わせた 59.0%がユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいるとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた 10.4%はユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思わないとしており、ユニバーサルデザインによる社会づくりが進んでいると思う人が、思わない人の 5 倍以上になっている。



## Q23 あなたは、静岡県において、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思いますか。

### 男女共同参画に関する意識

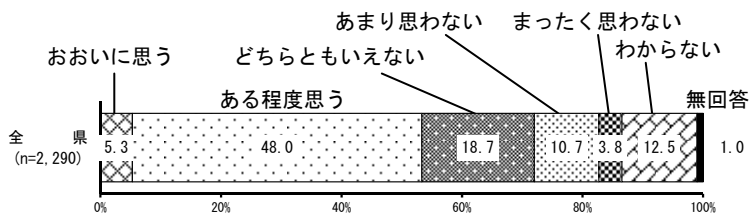
●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人を合わせた 23.8% が性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思うとしている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた 34.5% は性別に関わりなく、その個性と能力を発揮する機会が確保されていると思わないとしており、思わない人が思う人より 10.7 ポイント高くなっている。



## Q24 あなたがお住まいのまちは、子どもを生き育てやすいところだと思いますか。

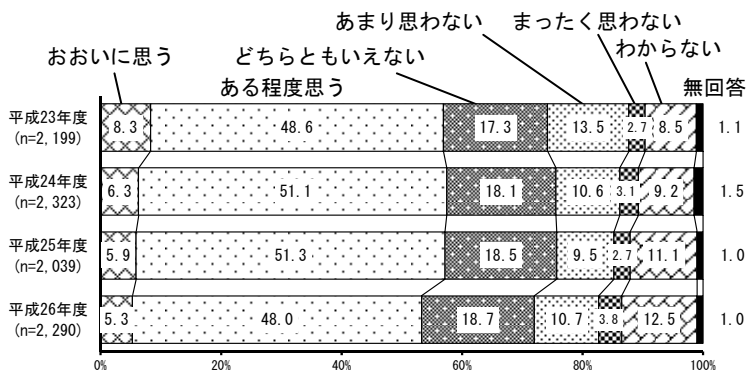
### 子どもを生き、育てやすさ

●「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた 53.3% が子どもを生き、育てやすいところだと思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた 14.5% は子どもを生き、育てやすいところと思わないとしており、子どもを生き、育てやすいところだと思う人が、思わない人の 3 倍以上になっている。



### 経年比較

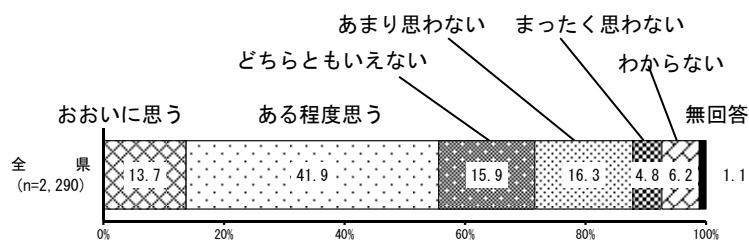
●前年度と比較すると、「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた割合が 3.9 ポイント低くなっている。



## Q25 あなたは、静岡県内の中山間地域を訪れたいと思いますか。

### 中山間地域への訪問

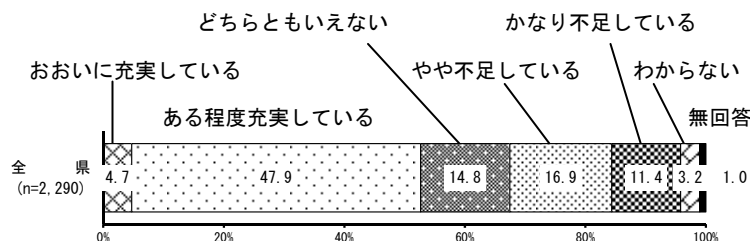
- 「おおいに思う」と「ある程度思う」を合わせた 55.6%が静岡県内の中山間地域を訪れたいと思うとしている。一方、「まったく思わない」と「あまり思わない」を合わせた 21.1%は静岡県内の中山間地域を訪れたいと思わないとしており、静岡県内の中山間地域を訪れたいと思う人が思わない人の 2 倍以上になっている。



## Q26 あなたがお住まいのまちや最寄りの都市では、商業、金融、情報、医療、交通、娯楽などあなたが必要だと思う機能が充実していると思いますか。

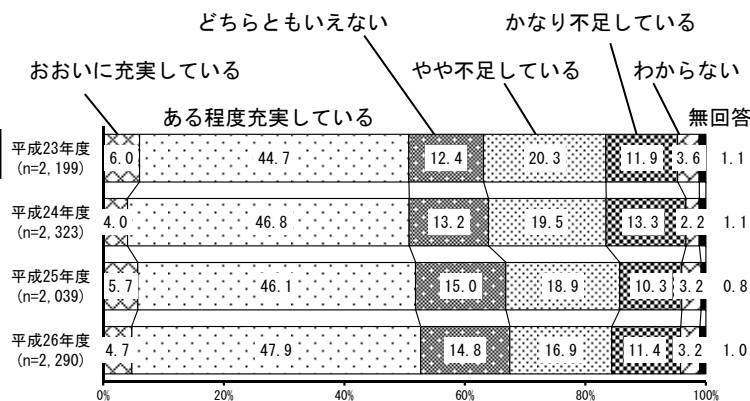
### 都市機能

- 「おおいに充実している」と「ある程度充実している」を合わせた 52.6%が住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実しているとしている。一方、「かなり不足している」と「やや不足している」を合わせた 28.3%は住まいのまちや最寄りの都市の機能が不足しているとしており、住まいのまちや最寄りの都市の機能が充実していると思う人の方が高くなっている。



### 経年比較

- 平成 23 年度からの推移には大きな差はみられない。



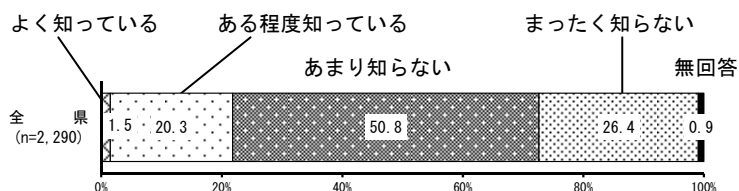
**Q27** あなたは、次にあげるような静岡県が行っている「行財政改革」に対する取組についてご存知ですか。

「静岡県の行財政改革」の例

- ・事業仕分け・事業レビュー
- ・県民と知事や県職員との意見交換（タウンミーティングなど）
- ・“ふじのくに”づくりに向けた予算編成、組織の見直し（職員数の削減）
- ・静岡県行財政改革推進委員会（行財政改革に関する評価委員会）
- ・教育委員会事務局の組織体制の見直し
- ・ひとり一改革運動（業務改善運動）

**行財政改革の取組の認知状況**

● 「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた21.8%が「行財政改革」に対する取組について知っているとしている。一方、「まったく知らない」と「あまり知らない」を合わせた77.2%が「行財政改革」に対する取組について知らないとしており、「行財政改革」に対する取組についてを知らない人が、知っている人の3倍以上となっている。

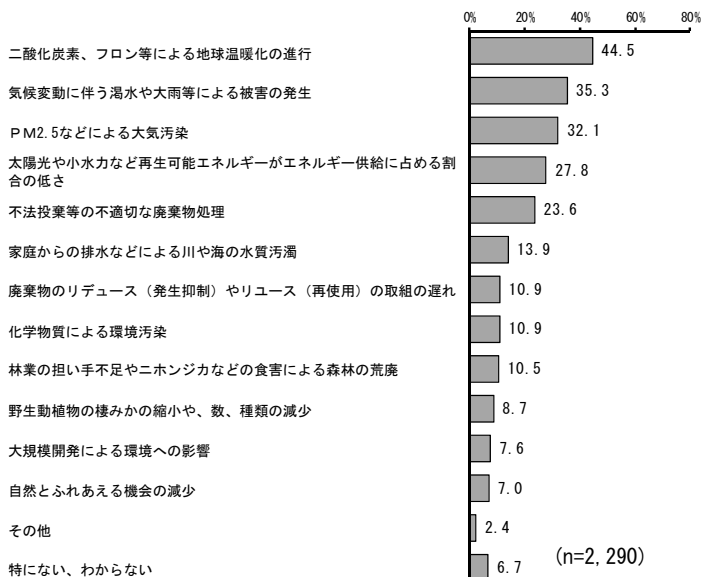


## 環境の保全に関する意識

### Q28 あなたが、現在、環境について、特に重要と考える問題はなんですか。(3.M.A.)

#### 環境について、特に重要と考える問題

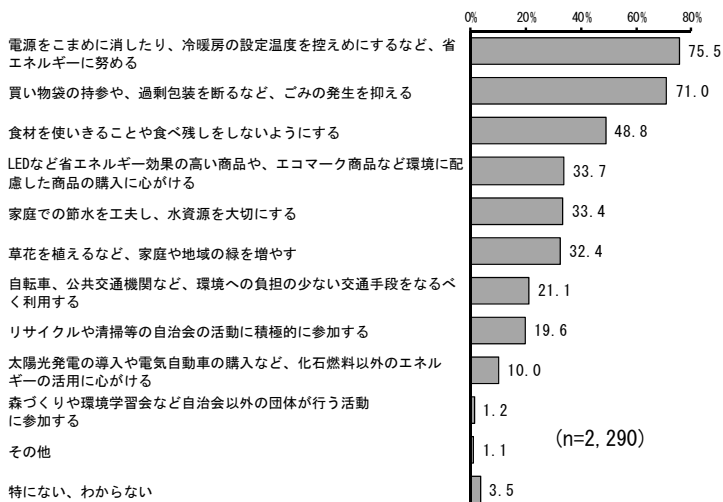
- 「二酸化炭素、フロン等による地球温暖化の進行」と回答した人が44.5%で最も高く、以下「気候変動に伴う渇水や大雨等による被害の発生」、「PM2.5 などによる大気汚染」の順になっている。



### Q29 あなたの日常生活において、習慣になっていることや、普段心がけていることはなんですか。(M.A.)

#### 普段心がけている環境に配慮した行動

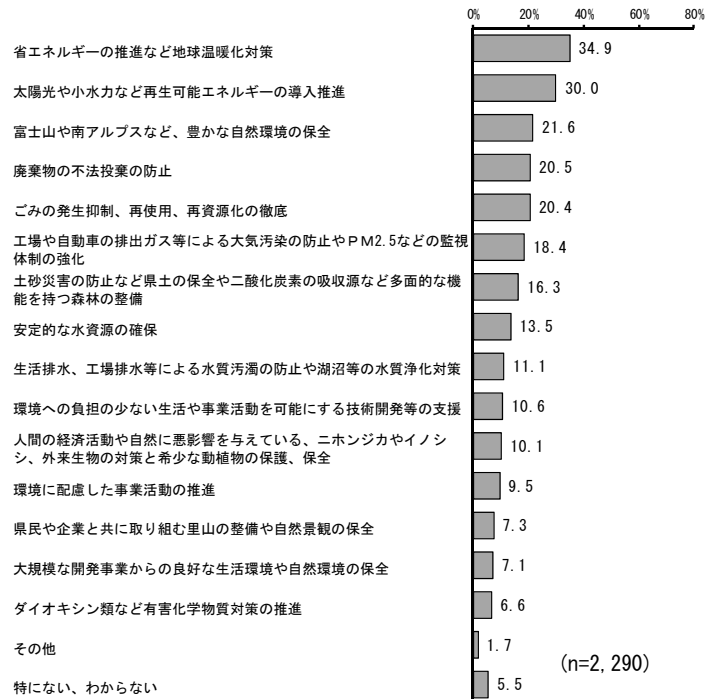
- 「電源をこまめに消したり、冷暖房の設定温度を控えめにするなど、省エネルギーに努める」と回答した人が75.5%で最も高く、以下、「買い物袋の持参や、過剰包装を断るなど、ごみの発生を抑える」、「食材を使いきることや食べ残しをしないようにする」、「食材を使いきることや食べ残しをしないようにする」の順になっている。



**Q30** 次世代に豊かな環境を継承していくため、あなたが、県に、より積極的に取り組んでほしいと思うことはなんですか。(3.M.A.)

**優先してほしい環境対策**

●「省エネルギーの推進など地球温暖化対策」と回答した人が34.9%で最も高く、以下、「太陽光や小水力など再生可能エネルギーの導入推進」、「富士山や南アルプスなど、豊かな自然環境の保全」の順になっている。





## 臓器提供に関する意識

—臓器提供意思表示カード等を「持っており、意思を記入している」人は11.4%

臓器移植に関する法律では、臓器提供に関する本人の意思表示は、原則として書面でなされる必要があります。そこで、国と(公社)日本臓器移植ネットワークでは、意思表示を簡単かつ明確にするため臓器提供意思表示カードを作成しています。また、運転免許証や保険証の裏面でも同様に意思表示ができるようになっています。

Q31

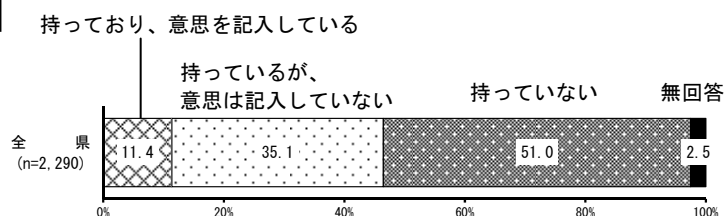
あなたは、臓器提供意思表示カード自体又は裏面に臓器提供意思表示欄のある運転免許証、健康保険証を持っていますか。また、持っている場合は、臓器提供意思表示カード等に、あなたの意思を記入していますか。

SQ

あなたが、臓器提供意思表示カード等に記入していない理由はなんですか。(M.A.)

### 臓器提供意思表示カード等への記入

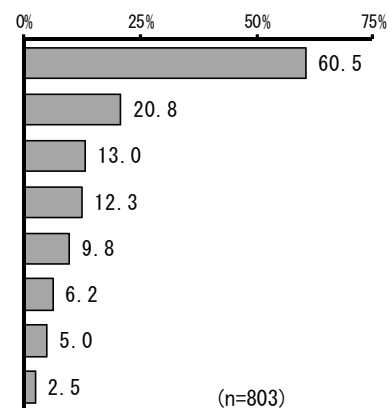
- 「持っていない」と回答した人は51.0%と最も高く、以下、「持っているが、意思は記入していない」、「持っており、意思を記入している」の順になっている。



### SQ 記入していない理由

- 「臓器提供をするか、しないかを決めていないから」が60.5%と最も高く、以下、「臓器提供に抵抗があるから」、「臓器提供をするような事態になることを考えたくないから」の順になっている。

臓器提供をするか、しないかを決めていないから  
 臓器提供に抵抗があるから  
 臓器提供をするような事態になることを考えたくないから  
 臓器提供のことを考えたことがないから  
 運転免許証、健康保険証に臓器提供意思表示欄があることを知らなかったから  
 運転免許証、健康保険証に書き込みをしたくないから  
 意思表示カード等に記入することについて家族の了解が得られないから  
 意思表示カード等に記入する意義がわからないから



# 防犯及び交通安全に関する意識

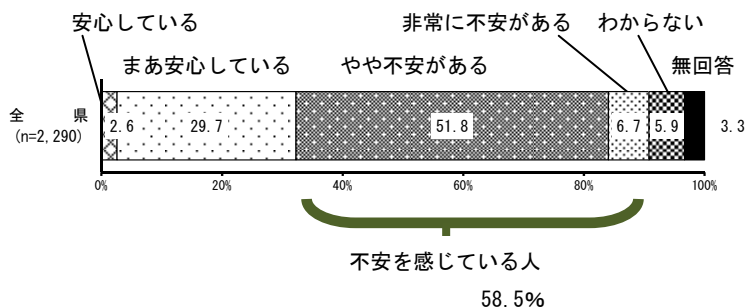
**Q32** あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

**SQ** 不安を感じている犯罪はなんですか。(M.A.)

## 犯罪被害に

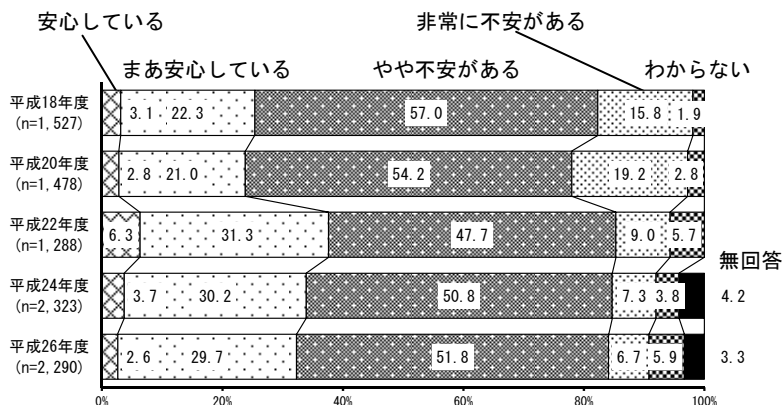
### 遭うのではないかと不安

●「非常に不安がある」と「やや不安がある」を合わせた 58.5%が県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じているとしている。一方、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた 32.3%が県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じていないとなり、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じている人の方が高くなっている。



## 経年比較

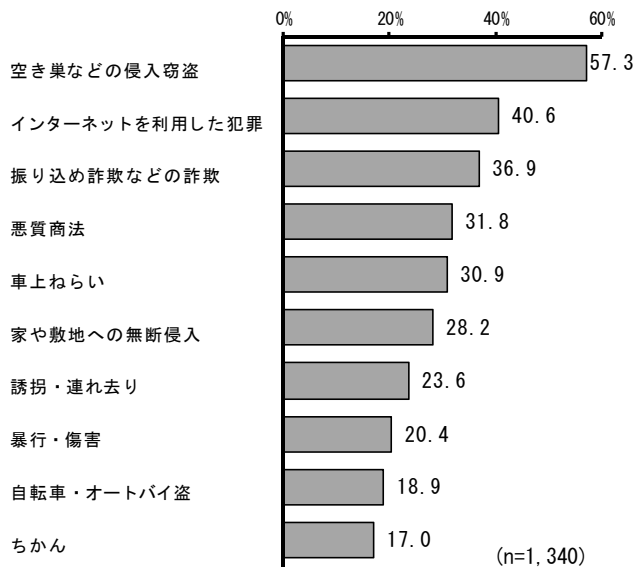
●平成 18 年度以降の推移でみると、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた割合は、平成 20 年度以前は 2 割台であったが、平成 22 年度以降は 3 割台となっている。



(注)平成 19 年度・21 年度・23 年度・25 年度は調査を実施していない。

## SQ 不安を感じている犯罪

●「空き巣などの侵入窃盗」と回答した人が 57.3%で最も高く、以下、「インターネットを利用した犯罪」、「振り込め詐欺などの詐欺」、「悪質商法」、「車上ねらい」の順になっている。(右図は上位 10 位)

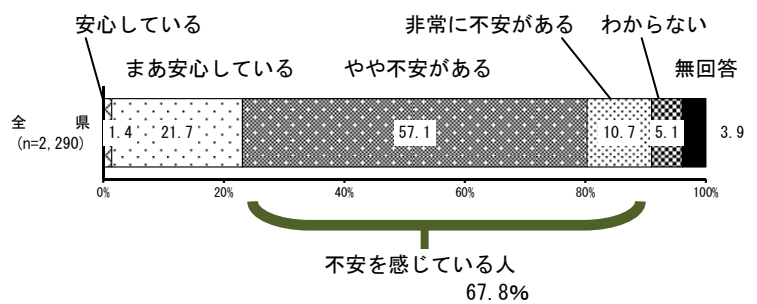


**Q33** あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。

**SQ** あなたが、交通事故に遭う（巻き込まれる）のではないかと不安を感じる交通違反はなんですか。（M.A.）

**交通事故に  
遭うのではないかと不安**

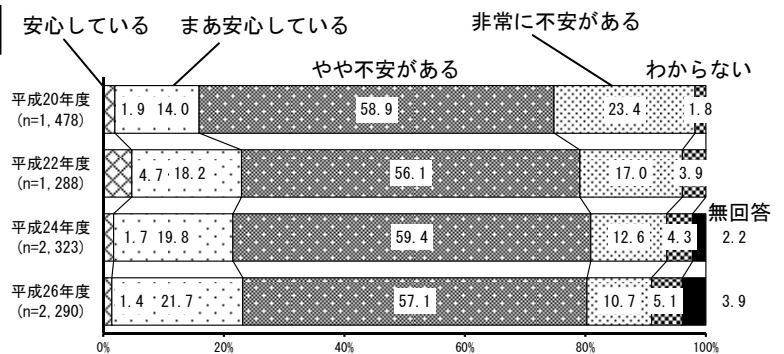
●「非常に不安がある」と「やや不安がある」人を合わせた67.8%が県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じているとしている。一方、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた23.1%が県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じていないとしており、県内で交通事故に遭うのではないかと不安を感じている人は、感じていない人の約3倍となっている。



**経年比較**

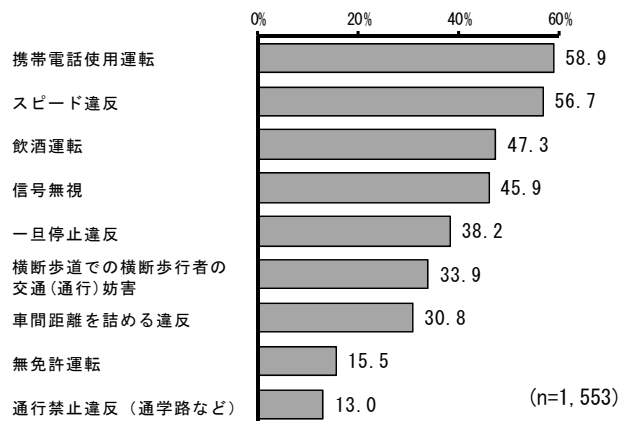
●平成20年度以降の推移で見ると、「安心している」と「まあ安心している」を合わせた割合は、平成20年度は1割台であったが、平成22年度以降は2割台となっている。

(注) 平成21年度・23年度・25年度は調査を実施していない。



**SQ 不安を感じている交通違反**

●「携帯電話使用運転」と回答した人が58.9%で最も高く、以下、「スピード違反」、「飲酒運転」、「信号無視」、「一旦停止違反」の順になっている。



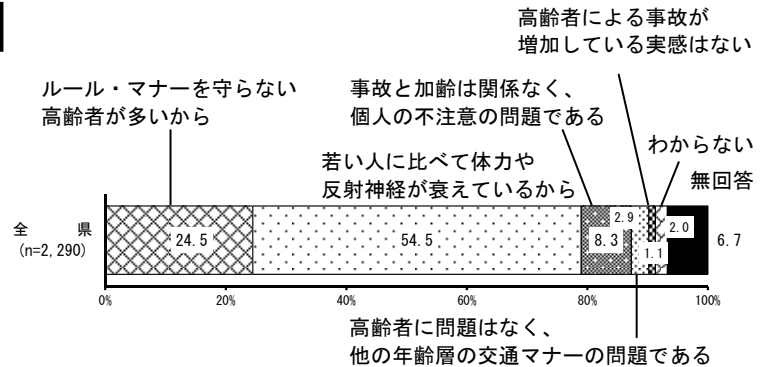
**Q34** あなたは、高齢者事故が、どのような原因で増加していると思いますか。

**Q35** あなたは、高齢者の歩行中の交通事故を防止するためには、どのような対策が有効だと思いますか。(M.A.)

**Q36** あなたは、高齢の運転者による交通事故を防止するためには、どのような対策が有効だと思いますか。(M.A.)

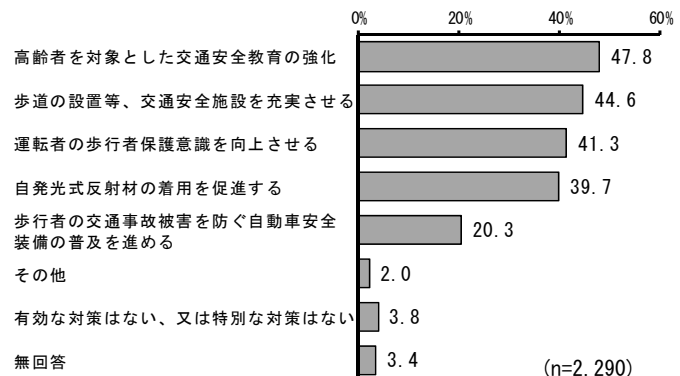
### 高齢者事故が増加する原因

- 「若い人に比べて体力や反射神経が衰えているから」と回答した人が54.5%で最も高く、以下、「ルール・マナーを守らない高齢者が多いから」、「事故と加齢は関係なく、個人の不注意の問題である」の順になっている。



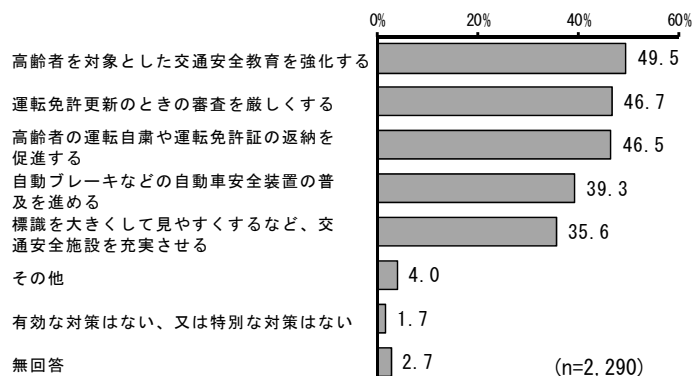
### 歩行中の高齢者交通事故防止対策

- 「高齢者を対象とした交通安全教育の強化」と回答した人が47.8%で最も高く、以下、「歩道の設置等、交通安全施設を充実させる」、「運転者の歩行者保護意識を向上させる」、「自発光式反射材の着用を促進する」の順になっている。



### 運転中の高齢者交通事故防止対策

- 「高齢者を対象とした交通安全教育を強化する」と回答した人が49.5%で最も高く、以下、「運転免許更新のときの審査を厳しくする」、「高齢者の運転自粛や運転免許証の返納を促進する」、「自動ブレーキなどの自動車安全装置の普及を進める」の順になっている。



# 県政へのご意見をお待ちしています

## ○県民のこえ担当が直接お聞きします

県庁の全課（室）、また県のすべての出先機関にはそれぞれ、県民のこえ担当がおりますので、お気軽にどうぞ。

## ○時間が取れない・直接言いにくい・・・

手紙、はがき、ファクシミリ、電子メールでもご意見・ご提案・ご要望を受け付けています。

## ○県民のこえ意見箱

「県民のこえ意見箱」（意見用紙と料金受取人払封筒）を県内104箇所に設置しております。こちらをご利用ください。

<設置場所>

県庁、市町庁舎、県総合庁舎、県民生活センター、御殿場健康福祉センター、島田土木事務所、袋井土木事務所、御前崎港管理事務所、県立美術館、県立中央図書館、県男女共同参画センター、グランシップ、県立総合病院、県立こども病院、県立こころの医療センター、富士山静岡空港

<問合せ先>

静岡県企画広報部広報課県民のこえ室あて  
電話：054-221-2235 FAX：054-254-4032  
電子メール koe@pref.shizuoka.lg.jp

## 静岡県相談窓口案内

**電話 054-221-2292(ふじのくに)**

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-120/soudan-madoguchi.html>  
(携帯電話) [http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe\\_soudan/index.html](http://www.pref.shizuoka.jp/m/koe_soudan/index.html)

県庁の仕事や

担当部署のご案内、

県庁見学申込み

**県庁案内**

**054-221-2455**

月～金 8:30～18:00(祝日・年末年始を除く)

---

---

平成 26 年度

県政世論調査（概要報告書）

平成 26 年 11 月

編集・発行 静岡県企画広報部 広報課 県民のこえ班  
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号  
電話 (054) 221-2235  
FAX (054) 254-4032  
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp

---

---